



最初にお読みください

CentreCOM® ARX640S リリースノート


この度は、CentreCOM ARX640S をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 5.1.5

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 5.1.2 から 5.1.5 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 サポートする USB 型データ通信端末の追加

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

下記の USB 型データ通信端末をサポートしました。

- ・ ソフトバンクモバイル 203HW
- ・ NTT コミュニケーションズ WM320

なお、サポートする USB 型データ通信端末の最新情報は、弊社ホームページでご確認ください。

2.2 PPP/PPPoE の接続状況ログ記録


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

PPP/PPPoE の接続状況ログの記録機能が追加されました。

ログの表示には、show logging call-event コマンドを使用します。


ログの最大保存件数は、logging call-event message コマンドで変更できます。

2.3 PPP/PPPoE 発呼状況の通知

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

PPP/PPPoE の接続が一定期間内に指定された回数実施された場合に、SNMP トラップを送信することができるようになりました。設定は、trap high-freq-connect interval コマンド、および trap high-freq-connect threshold コマンドで行い、clear ppp trap high-freq-connect コマンドで SNMP トラップの送信状態をクリアします。また、設定状態は show ppp コマンドで確認できます。

2.4 USB 型データ通信端末の通信方式設定


 [「コマンドリファレンス」 / 「PPP」](#)

USB 型データ通信端末の通信方式の設定が可能になりました。

設定には mobile communication-type コマンドを使用します。

本設定に対応する USB 型データ通信端末の最新情報は、弊社ホームページでご確認ください。

2.5 NAT/フィルタールールごとのマッチングカウンター表示

 [「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」](#)

以下のコマンドの出力にルールごとのマッチングカウンターが表示されるようになりました。

- ・ show ip traffic-filter
- ・ show ip traffic-filter statistics
- ・ show ip nat statistics
- ・ show ip napt statistics
- ・ show ipv6 traffic-filter
- ・ show ipv6 traffic-filter statistics
- ・ show ipv6 npt statistics

3 本バージョンで仕様変更された機能


ファームウェアバージョン 5.1.2 から 5.1.5 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 SNMP Enterprise トラップ送信ログの情報追加

 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」](#)

SNMP の Enterprise トラップを送信したときに記録されるログに OID の情報を追加しました。

3.2 NTP クライアント

 [「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」](#)


NTP サーバーが Reference Timestamp を 0 で通知する場合でも時刻同期できるようになりました。

3.3 セカンダリー IP アドレスの複数設定

 [「コマンドリファレンス」 / 「IP ルーティング」 / 「IP インターフェース」](#)


インターフェースに設定できるセカンダリー IP アドレスを 1 個から 8 個に拡張しました。設定には ip address コマンドを使用します。

3.4 拡張 IP アクセスリスト：他のアクセスリストの読み込み

 [「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」](#)

拡張 IP/IPv6 アクセスリストのエントリー追加で、他のアクセスリストを読み込めるようになりました。設定には include コマンドを使用します。

3.5 ipsec policy-name-link enable コマンド

 参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

IKEv1 においては、ローカル ID とリモート ID の組み合わせが同一の IPsec ポリシーを複数作成した場合、同時に接続できるのはいずれか 1 つのポリシーに限定されていましたが、本コマンドを追加することにより、同時に使用することが可能になりました。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン **5.1.2** から **5.1.5** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 イー・モバイル製 USB 型データ通信端末を使用した構成において、show mobile signal-strength コマンドの表示ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 clear device usb port コマンドが正常に動作しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.3 keepalive dpd コマンドを no 形式 (no keepalive dpd) で実行できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.4 本製品の内蔵フラッシュメモリーから、ファイルをコピーやリダイレクトなどで USB メモリーへ保存した場合、USB メモリーの空き容量が不足していてもエラーメッセージが表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.5 USB メモリーが接続されていない状態で本製品の内蔵フラッシュメモリーから、ファイルのコピーやリダイレクトなどで USB メモリーへの保存を行った場合、エラーメッセージが表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.6 IKEv2 および RADIUS サーバーを使用したリモートアクセス型 IPsec VPN の接続構成において、認証完了前にクライアント側から VPN 接続を完了した場合、その後、他のクライアントからの VPN 接続ができなくなっていましたでしたが、これを修正しました。
- 4.7 IKEv2 および RADIUS サーバーを使用したリモートアクセス型 IPsec VPN の接続構成において、RADIUS サーバーからの応答がないことにより、authd モジュールが再起動することがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 SNMP Walk を使って連続で MIB を取得すると SNMP モジュールが再起動することがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 clock set コマンド、および NTP クライアント機能で時刻設定する場合に、設定される時刻に 20 秒が加算されていましたが、これを修正しました。
- 4.10 IP over IP トンネルインターフェースを経由した通信が発生している状態で下位インターフェースがダウンした場合、再起動する場合がありますでしたが、これを修正しました。


- 4.11 NTT ドコモ製の LTE 対応 USB 型データ通信端末を使用した構成において、PPP の接続ができない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.12 EtherIP over IPv4/v6 の構成でタグ付きパケットをパススルーする際に、プライオリティが設定されたタグ付きパケットを EtherIP 経由で受信した場合に転送しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.13 インターフェースにセカンダリー IP アドレスが設定されている状態で、プライマリー IP アドレスを DHCP クライアント機能で取得する設定に変更できていましたが、これを修正しました。
- 4.14 PPPoE インターフェースにセカンダリー IP アドレスが設定されている状態で、プライマリー IP アドレスの設定を IPCP で IP アドレスを取得する設定に変更し、IPCP で IP アドレスを取得するとセカンダリー IP アドレス設定の secondary が消えていましたが、これを修正しました。
- 4.15 DNS リレー使用時、WAN 設定で DNS 問い合わせドメイン（オプション）を指定すると、指定した PPPoE インターフェースがオンデマンド接続の場合、設定したドメイン名よりも長いドメイン名の問い合わせを受けると同一のドメイン名として判定していましたが、これを修正しました。
- 4.16 IPv4 および IPv6 の攻撃検出機能において、1 つの攻撃を検知した場合に show ip ids statistics コマンドおよび show ipv6 ids statistics コマンドで表示される該当のカウンターが +2 計上されていましたが、これを修正しました。
- 4.17 本製品配下の複数の PPTP クライアントから WAN 側の PPTP サーバーに対して接続ができない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.18 アクセスリストで ip-option の precedence、および dscp を設定しても正しく動作しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.19 スタートアップコンフィグに含まれる MAC フィルターの設定が、起動時に正常に読み込めない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.20 URL アクセスリストの説明文を追加する remark コマンドの設定が正常に設定されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.21 PPPoE インターフェース（常時接続）と PPP インターフェース（オンデマンド接続）で構成される環境で DNS リレーを使用した場合、ルーター配下から DNS クエリーを受信、またはルーター自身から DNS クエリーの送信を行う際に PPP の接続を行う場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.22 DNS リレーのドメイン名による名前解決の振り分け設定のインターフェースがオンデマンド接続の場合、設定したドメイン名と異なるドメイン名の問い合わせを受けた場合でもオンデマンド接続の PPP/PPPoE インターフェースが有効になる場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 4.23 proxydns interface domain コマンドで指定したインターフェースを proxydns interface ignore コマンドで指定すると、関連プロセスが異常終了することがありましたが、これを修正しました
- 4.24 ISAKMP ポリシーの peer 設定で FQDN を指定した場合に、passive コマンドを入力しても設定に反映されませんでした。これを修正しました。
- 4.25 IPsec プロトコルに AH を指定すると通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.26 IKEv2 使用時、ipsec policy-name-link enable コマンドが設定されていて、かつ tunnel policy コマンドで関連付けているポリシーが存在しない場合に関連プロセスが異常終了することがありましたが、これを修正しました。
- 4.27 IPsec 経由で syslog や SNMP トラップなどを送信する設定を行っている場合に、本製品の起動後にループバックアドレスを送信元 IP アドレスに使用してループバックインターフェースへパケットを転送することがあり、以下のような事象が発生していましたが、これを修正しました。
- ・ IP packet discarded のログが多数記録される
 - ・ logging buffered suppress-repeated コマンドを設定しても連続するログが圧縮されない
 - ・ logging buffered mode one-time コマンドを設定し、最大件数のログが記録された後に clear logging コマンドを実行してもログが削除されない

5 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 5.1.5 には、以下の制限事項があります。

5.1 USB デバイスを接続した状態での起動

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」**


USB デバイスを接続した状態で本製品を起動した場合、起動中に意図しないメッセージが表示され、また、起動後に USB デバイス関連のログが記録されないことがあります。表示およびログ記録だけの問題であり、USB デバイスの動作には影響ありません。

5.2 USB LED 表示


 **「取扱説明書」 17 ページ**

- USB ポートに挿入した USB 型データ通信端末を抜いたとき、該当ポートの LED が消灯しない場合があります。
- USB 型データ通信端末および USB メモリーを挿入している状態で PPP 接続を行っているとき、USB メモリーを挿入したポートに clear device usb port コマンドを実行すると、USB 型データ通信端末を接続したポートの LED が緑点灯から橙点灯になりますが、動作に影響はありません。

5.3 USB メモリーの操作

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「システム」](#)

USB 型データ通信端末が挿入されている状態で、もう片方の USB ポートに USB メモリーを挿入した場合、USB メモリーの操作が正常に行えないことがあります。この場合、clear device usb port コマンドで該当 USB ポートを再起動してください。

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「システム」](#)

5.4 erase flash コマンド

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「ファイル操作」](#)


erase flash コマンドで、フラッシュメモリー上に存在しないファイルを指定して実行すると、しばらくスリープ状態になります。スリープ状態のときに「Ctrl+C」キーを押して処理を中断すると、show flash コマンドでファイルの表示ができなくなってしまいます。その場合は、ログアウトし再ログインを行ってください。

5.5 SSH サーバー

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「運用・管理」](#) / [「Secure Shell」](#)


本製品が SSH サーバーとして動作するとき、DNS リレーが有効で、かつ DNS サーバーのアドレスが登録されていない場合、SSH クライアントから本製品への接続に時間がかかる場合があります。

5.6 PPP プロファイルの設定変更

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「PPP」](#)


PPP プロファイルの設定を変更した場合、保存していない設定が削除されることがあります。その場合は再度設定してください。


5.7 LCP Configure-Request の再送間隔

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「PPP」](#)

LCP Configure-Request パケットの再送間隔が lcp timeout コマンドの設定値より短くなっています。

5.8 BVI インターフェース

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「ブリッジング」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP ルーティング」](#) / [「IP インターフェース」](#)

- BVI インターフェース（ブリッジグループ全体を表す仮想的なインターフェース）では DHCP クライアント機能 (ip address dhcp コマンド) を使用できません。
- BVI インターフェースを使用する場合に、Bridge インターフェースにて Bridge 機能を無効にすると、BVI インターフェース経由での L3 通信ができなくなる場合があります

5.9 OSPF インターフェース数

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP ルーティング」 / 「経路制御 (OSPF)」

OSPF セッションを確立可能なインターフェースの数は最大 20 です。

5.10 BGP Hold Time

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP ルーティング」 / 「経路制御 (BGP)」


BGP の Hold Time を 0 に設定しないでください。Hold Time を 0 に設定した場合、BGP ピアが再起動などのため再接続を要求してきても、本製品がこれを拒否するため、それ以降 BGP セッションを確立できなくなります。

5.11 IPv6 近隣要請 (NS) パケット

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 ルーティング」

システム起動直後に受信した IPv6 近隣要請 (NS) パケットを破棄することがあります。

5.12 MAC フィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

MAC フィルターと以下の機能を同一インターフェースで併用した場合に、MAC フィルターの統計情報で hits の値が実際のパケット数の倍カウントされます。

- ・ DHCP サーバー
- ・ DHCP リレー
- ・ UDP ブロードキャストヘルパー

なお、異なるインターフェースで使用した場合には本現象は発生しません。

6 取扱説明書の補足・誤記訂正

取扱説明書 (613-001384 Rev.B) の補足事項です。

6.1 サポートする USB 型データ通信端末

サポートする USB 型データ通信端末につきましては、弊社ホームページでご確認ください。

7 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書 (613-001384 Rev.B) とコマンドリファレンス (613-001491 Rev.E) は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書・コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「613-001491 Rev.E」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>